

「第41回住まいのリフォームコンクール」総評

リフォームでは新築にできないことができる

41年目を迎えた本年も、全国から316件という多数の応募作品が集まった。応募された皆様、誠に有難うございました。それらの応募作品を見ていると、つくづく「リフォームでは新築にできないことができる」という思いが強くなる。かつては「リフォーム」と言えば、まだ建替え新築をするほどではないし、それだけの予算もないので「今回はリフォームで我慢しておくか」というような位置付けの場合が多かったし、住宅生産に関わる業界の方々も新築市場のおまけの市場程度に捉えていた方が少なくなかったと思う。それがどうだろう。時代は大きく変わり、今回の応募作品の多くでも、「新築にできない」価値を求めて敢えてリフォームという方法を選び、確実にその価値を手に入れていた。リフォームは全く我慢の結果でもなければ、おまけの市場でもない。新築よりずっと面白い世界になりつつある。

ポストコロナの時代らしく大都市圏から地方に移住し、ゆったりとした豊かな環境の中で子育てし、働き、地域で様々な人間関係をつくって行く。そんなライフスタイルを実現すべく、希望の地域に適度な空家を発見し、それを自分たちの暮らしの場に造り変えた瀬戸のプロジェクト。築40年の実家の住み継ぎをテーマに、長期優良住宅仕様の性能向上を図って両親との同居を実現した糸島のプロジェクト。同じく築40年の祖母の家に、住む人の健康状態等に合わせて必要な部分だけを性能向上する工事を施すことで、世代を超えた住み継ぎを実現した熊本のプロジェクト。築50年の団地の住戸で、時間をかけたDIY主体の工事によって、抑えた

予算内で住み手独自のインテリア空間を実現した横須賀のプロジェクト。築40年の工業化住宅の床面積が要求よりも余裕のあるものであったことを利して、従来の室内側に外部空間との緩衝空間を設け、新しい暮らしの場を造り出した刈谷のプロジェクト。上位賞を受賞したこれらのプロジェクトは明らかに「新築にできない」価値を生み出している。

築34年の社宅に外断熱化、再生エネルギー導入、配管設備とインフィルの全面更新等、いわばフルコースのリフォーム工事を行い賃貸住宅に再生させた市川のプロジェクト。築35年のワンルーム賃貸集合住宅の住戸割を変えることで、現在の当該エリアの市場に対応するであろう40㎡等の使いやすくて心地良い住戸群を実現した静岡のプロジェクト。上位賞の中のこれら二つのプロジェクトは、新築でもできるものと言えるが、リフォームでは、新築よりも有利なコストと工期で新築同等の価値が得られるということを示す優れたプロジェクトだと言える。

以上、日本の住まいにとってのリフォーム独自の価値創出の方法をそれぞれに教えてくれる素敵なお作品が、今年も目白押しであった。全国で頑張られた施主の皆様、設計者・施工者の皆様にエールを送りたいと思う。

第41回住まいのリフォームコンクール審査委員会
審査委員長 松村秀一